

交野市教委ニュース

第47号 (平成28年9月23日発行)

学校図書館の充実と活用

読書の秋、ともいわれますが、市から学校司書の派遣がある学校、図書館アドバイザーの派遣を受けている学校もあり、各小・中学校でも学校図書館を中心に、子どもたちが本に親しんでいます。

倉治小学校 (9月16日、5年生の授業)

倉治小学校は、小学校図書館を専門的に研究されている方を週2回、図書館アドバイザーとして派遣を受けています。



授業の始まりは、各自で選んだ本を読みます。図書館アドバイザーに本の助言を求める児童もいます。図書室の表には、ボランティアさんが「交野市史跡ガイドマップ」を見やすくアレンジして掲示していただいています。



まず、前日の中秋の名月にちなんで、月の話し、月の本の紹介、そして、9月誕生日の児童には、その日、有名人の誰が生まれた等の紹介です。そして、数冊の本を紹介しながら、どの本を読んで欲しいか、挙手で決めます。この、本の紹介は「読みたい」と思わせるような、興味をそそる言い方が大切。これが、後々の「ビブリオ・バトル」にもつながり、根拠ある討論や議論をする力の育成となります。

この日は、挙手で、月に住む月おとこが楽しそうな地球人と仲間になりたいと思った「月おとこ」、イギリスの雨どいで怪物や架空の動物などを型どった彫刻のガーゴイルが夜になると活動する「夜がくるまでは」の2冊に決まりました。

交野小学校 (9月16日、お昼の開館)



交野小学校は、二学期から学校司書が派遣されています。学校図書館の利用児童も多くなり、お昼の休憩時にもたくさんの児童が利用しています。児童への本のアドバイスだけではなく、先生が学校司書の方に、活動目的に合わせてどのような本がよいか助言を求めることもあります。